

まちの 空を見あげて

vol.17

雪虫が舞い始めますと、来るべきものが来たなという感じになります。昨年の少雪では済まないかも、そんな予報が气象台から出されています。季節の便りにあわせコロナ感染症に加えてインフルエンザが本番を迎える時期となりました。町民の皆さまは、大雪と身体の心配を抱えながら過ごされることと思います。

令和2年も、しばらくすると初雪を迎えます。こんなにおいしいお米がたくさん採れた年も珍しく、値段は少し下がりましたが、まずまずの年であったのではないかと思います。ウィズコロナ（コロナと共に）の新しい生活様式から、今まで通りの普通の生活様式に戻る事を心から願っています。

10月18日には町民と一緒に美瑛町で足腰鍛え隊としてウォーキングを楽しみました。紅葉を楽しみ、岩の上でお弁当を開き、様々な年齢の方と小学生に戻って遠足をするような不思議な解放感に満ちていました。心深くに、暖かな太陽を灯し、お互いに寒さの冬を暖めあいましょう。

町長 田中一史



モー突進レポート

翔 SHOW TIME たいむ

vol.17



田村翔惟です。今回は町内の民謡舞踊サークル「睦月サークル」の練習に参加させていただきました。

睦月サークルは、平成22年に創立。名前の由来は1月に創立したことから「睦月」を使ったそうです。現在は4名で小崎先生指導のもと毎週木曜日の夜に活動。毎年、妹背牛町の文化祭や旭川市での発表会に向けて練習しています。

まずは、「花笠踊り」の練習から。花笠踊りは山形県の「花笠まつり」で「花笠音頭」に合わせて踊られています。練習が始まる前に会長の宝泉さんにたすきがけしてもらいました。このたすきは踊っている最中に左手が空いている場面で掴むそうです。花笠踊りでは名前のとおりすべての動作に花笠を使います。持っている手によって笠を表裏にしたり、笠を頭の上に掲げて左右に軽くお辞儀をしたりと様々な使い方をします。花笠を両手で回す部分では手を開いた状態を維持するときに回せると先生からアドバイスをいただきました。手を開くことで手のひらがしっかりとした軸になり、指が回転を阻害せずきれいに回すこと



民謡舞踊 「睦月サークル」



ができます。花笠踊りは基本的に今習った一連の動作を繰り返すこととなります。

次は、歌謡曲「口なし雨情」に合わせての踊りを体験。まずは会員の皆さんの舞踊を拝見させていただきます。踊っている中で配置が変化していったり、皆さんのしなやかな動きや袖口の上をつまんで涙をぬぐうようにしたり、物憂げな表情をしたりと切ない場面を表現しているように感じました。雨を手や扇子で受ける振り付けもあり、見ている者に情景を浮かべさせます。僕も実際に踊ってみました。皆さんの邪魔にならないように立ち回り、動きを覚えるのに必死で表現を意識する余裕はありませんでした。踊り終えると皆さん楽しそうな様子。宝泉さんは、「若い人と踊れて楽しかった。今は少ない人数で活動しているが、若い人が入ってくればより盛り上がる。」とおっしゃっていました。就学前の小さなお子さんでも始められるそうです。日本の伝統文化・芸能に乏しい僕ですが、今回の体験をきっかけに興味を持つことができました。